

未満で感染すると稀ではありますが、数年後に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という特殊な脳炎を発症することがあり、この場合、多くは知能障害や意識障害が進行し数年以内に死亡します。風疹も妊婦が妊娠 20 週までに感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴等を特徴とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。

沖縄県では、昭和 39 年に風しんが大流行し、翌 40 年を中心に多くの先天性風しん症候群の児が出生、彼らの修学のために 6 年間の時限付きで「北城ろう学校」が設立された過去があります。また、平成 10 年から 13 年にかけて乳幼児を中心に麻しんが大流行し、9 名の尊い命が失われています。平成 30 年 3 月から 6 月にかけての外国人旅行者を発端とした麻しんの流行は記憶に新しいところです。

沖縄県では、平成 13 年に小児科医、県、市町村保健師などを中心に「沖縄県はしか “0”

プロジェクト委員会」を発足、平成 15 年には「沖縄県麻疹発生把握実施要領」および「沖縄県麻疹発生時対応ガイドライン」を作成、国に先駆けて麻しんの検査診断による全数把握、疑い時から疫学調査を実施し感染拡大の防止に努め、はしか “0” を目指し、予防接種の推進にも取り組んできました。

しかしながら、感染症予防指針において感染拡大防止に有効とされる接種率 95% 以上に対し、令和 3 年度の沖縄県の MR ワクチンの接種率は、第 1 期（1 歳時）91.9%（全国第 41 位）、第 2 期（就学前）88.2%（全国第 47 位）と低い状態にあるのが現状です。

今後も、より一層の対策が必要と考えます。これには、小児科医だけでなくすべての医療従事者のご理解、ご協力が必要です。未来のある沖縄県の子どもたちの健康を守るため、どうぞよろしくお願い申し上げます。



//////////////////////////////// **お 知 ら せ** //////////////////////////////////

**暴力団追放に関する相談窓口**

暴力団に関するすべての相談については、警察ではもちろんのこと、当県民会議でも応じており、専門的知識や経験を豊富に有する暴力追放相談委員が対応方針についてアドバイスしています。

暴力団の事でお困りの方は一人で悩まず警察や当県民会議にご相談下さい。

●暴力団に関する困り事・相談は下記のところへ

受付 月曜日～金曜日（ただし、祝祭日は除きます） 午前10時00分～午後5時00分

TEL (098) 868-0893 なくそうヤクザ 862-0007 スリーオーセブン FAX (098) 869-8930 (24時間対応可)

電話による相談で不十分な場合は、面接によるアドバイスを行います。

「暴力団から不当な要求を受けてお困りの方は……悩まずに今すぐご相談を（相談無料・秘密厳守!）」

財団法人 暴力団追放沖縄県民会議